

## 留学生別科における 10 年間の結果分析に基づく 日本語能力向上のための一考察

片山 浩子\*・西原 江里子\*\*・清水 一郎\*\*\*

\*岡山理科大学留学生別科

\*\*岡山理科大学学生支援部留学生別科担当

\*\*\*岡山理科大学工学部機械システム工学科

### 1. はじめに

岡山理科大学留学生別科は、2010 年に設置され、2020 年 3 月で 10 年目の節目を終えた。そこで、過去 10 年間ににおける留学生別科生の、入学時に対する修了時の日本語能力向上を定量的に比較し、学生個々の状況や、留学生別科の変遷と関連させながら評価分析することによって、留学生の日本語能力を、より有効に向上させることが可能な教育方針について検討する。

はじめに、留学生別科の 10 年間ににおける変遷の振り返りとして、在籍した学生の国籍と男女別人数の推移を示す。続いて、2010～2019 年度のカリキュラムと 2020 年度に改訂した新しいカリキュラムを示し、その改訂理由を述べる。また、現状の留学生別科における教育システムについても説明する。

次に、岡山理科大学留学生別科に在籍した学生の日本語能力を示す 10 年分のデータを使用し、学生が入学時に提出した日本語能力を証明する資料に基づく入学時日本語レベルを、留学生別科在籍時に受験した日本語能力試験 (JLPT) <sup>1)</sup>および他の日本語能力を測る公的試験結果を JLPT の評価指標に換算し、学生が修了までに取得した最も高いレベルの試験結果と比較することによって、学生の日本語能力向上の状況を考察する。具体的な比較方法としては、各試験結果をポイント化し、入学時の日本語能力の平均スコアと修了後の平均スコアの差を取って年毎に評価分析する。なお、日本語能力が下がった時期もあるため、入学前の学習履歴と修了時の日本語能力の関係について検討する。また、日本語能力の向上と加計学園設置の各大学および専門学校への進学率を比較する。さらに、漢字圏、非漢字圏に分けた際の日本語能力の差について比較する。最後に総括として、留学生別科の現状と課題をまとめる。

### 2. 留学生別科の変遷

#### 2-1 学生の国籍と男女別人数

これまでに岡山理科大学留学生別科に在籍した学生の国籍と男女別人数を表 1 に示す。なお、2017 年度には、1 年目に希望する大学への入学が叶わなかったものの進学意欲を持ち続けている学生に対して、2 年目も留学生別科に在籍して日本語学習を継続できるように「岡山理科大学留学生別科規程」を改訂した。したがって、2017 年度以降は累計在籍者数となる。この改訂によって 2017 年度は最も多い 40 名の在籍者となった。

国籍に着目すると、これまでに留学生別科は 7 つの国から学生を迎えてきた。年によって

表 1 : 岡山理科大学留学生別科における学生の国籍と男女別人数  
(2017 年度以降は累計在籍者数)

| 年度      | 2010 |   | 2011 |   | 2012 |   | 2013 |   | 2014 |   | 2015 |    |
|---------|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|----|
| 性別／国籍   | 男    | 女 | 男    | 女 | 男    | 女 | 男    | 女 | 男    | 女 | 男    | 女  |
| 中国      | 13   | 3 | 4    | 1 | 6    | 1 |      |   | 7    | 1 | 1    | 2  |
| スリランカ   |      |   | 1    | 1 |      |   |      |   |      |   | 3    |    |
| パキスタン   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |    |
| ネパール    | 1    |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      | 4  |
| サウジアラビア |      |   |      |   |      |   | 6    |   |      |   |      |    |
| ベトナム    |      | 1 |      |   | 1    | 1 |      |   | 3    | 1 | 2    | 5  |
| マレーシア   |      |   |      |   |      |   | 1    |   |      |   |      |    |
| 男性合計    | 14   |   | 5    |   | 7    |   | 7    |   | 10   |   | 6    |    |
| 女性合計    |      | 4 |      | 2 |      | 2 |      |   |      | 2 |      | 11 |
| 累計      | 18   |   | 7    |   | 9    |   | 7    |   | 12   |   | 17   |    |

| 年度      | 2016 |   | 2017 |    | 2018 |   | 2019 |   | 2020 |   | 累計合計 |
|---------|------|---|------|----|------|---|------|---|------|---|------|
| 性別／国籍   | 男    | 女 | 男    | 女  | 男    | 女 | 男    | 女 | 男    | 女 |      |
| 中国      | 6    | 1 | 6    | 3  | 6    | 1 | 15   | 1 | 8    | 3 | 89   |
| スリランカ   |      |   | 1    |    | 4    | 1 | 1    | 5 |      |   | 17   |
| パキスタン   | 9    |   | 10   |    | 9    |   | 6    |   | 2    |   | 36   |
| ネパール    | 8    | 4 | 12   | 8  | 2    | 3 |      |   |      |   | 42   |
| サウジアラビア |      |   |      |    |      |   |      |   |      |   | 6    |
| ベトナム    | 1    |   |      |    | 1    | 1 | 2    |   | 2    |   | 21   |
| マレーシア   |      |   |      |    |      |   |      |   |      |   | 1    |
| 男性合計    | 24   |   | 29   |    | 22   |   | 24   |   | 12   |   | 160  |
| 女性合計    |      | 5 |      | 11 |      | 6 |      | 6 |      | 3 | 52   |
| 累計      | 29   |   | 40   |    | 28   |   | 30   |   | 15   |   | 212  |

ばらつきがあるものの、最も多いのは中国であり、漢字圏であって日本への留学実績が既に豊富であるためと考えられる。次いで多い順に、ネパール、パキスタン、ベトナム、スリランカとなる。全国的にも中国、ベトナムに次いで3番目にネパールからの留学生が多い<sup>2)</sup>。本学も2016年～2018年にかけてネパールの留学生が増えている。パキスタンからの留学生が多いのは加計学園国際交流局を通じて積極的に受け入れてきたためと考えられる。男女別人数に着目すると、男性は女性の3倍以上であり、岡山理科大学が理系学部中心であったことに強く関連すると思われる。なお、サウジアラビアからの留学生は2013年度のみとなっているが、この留学は「アブドラ国王奨学金プログラム」によるものであり、この年度に限って岡山理科大学への進学希望があったためである。

## 2-2 留学生別科のカリキュラム

2015年以降、南アジアからの入学者（非漢字圏）が増えたこと、それに伴って、1年間だけでは日本語能力の向上が十分ではない学生が毎年数名出ていたことを考慮し、2020年度

表2：改訂前の留学生別科カリキュラム（2010年度～2019年度）

| 授 業 科 目      | 配<br>当<br>年<br>次 | 単<br>位<br>数 | 必<br>修<br>選<br>択<br>別 | 毎週授業時間数 |   |
|--------------|------------------|-------------|-----------------------|---------|---|
|              |                  |             |                       | 1年次     |   |
|              |                  |             |                       | 春       | 秋 |
| 日本語Ⅰ（文型・文法A） | 1                | 4           | ○                     | 4       |   |
| 日本語Ⅰ（文型・文法B） | 1                | 4           | ○                     |         | 4 |
| 日本語Ⅱ（聴解A）    | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅱ（聴解B）    | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅱ（聴解C）    | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |
| 日本語Ⅲ（会話A）    | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅲ（会話B）    | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙A） | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙B） | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙C） | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |
| 日本語Ⅴ（作文A）    | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅴ（作文B）    | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |
| 日本語Ⅵ（読解A）    | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅵ（読解B）    | 1                | 2           | ○                     | 2       |   |
| 日本語Ⅵ（読解C）    | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |
| 日本語Ⅶ（試験対策A）  | 1                | 4           | ○                     | 4       |   |
| 日本語Ⅶ（試験対策B）  | 1                | 4           | ○                     |         | 4 |
| 情報科学         | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |
| 総合学習         | 1                | 2           | ○                     |         | 2 |

から、2年目も継続的な学習と単位取得ができるようにカリキュラムを改訂した。改訂前のカリキュラムを表2に、現在（改訂後）のカリキュラムを表3に示す。改訂前のカリキュラムでは、開講している科目の総単位数が46単位であったが、新しいカリキュラムでは総単位数を88単位に増加させた。1回の講義時間は90分であり、留学生別科を修了するためには40単位以上が必要である。詳細は次節で述べるが、留学生別科では月曜日から木曜日まで1～3時限を開講しているため、1年間に取得可能な単位数は単純計算で48単位となる。したがってこのカリキュラム改訂により2年目も単位取得が可能となる。また、改訂前に取り入れていた「情報科学」の授業を「別科セミナー」に変更した。この変更の目的は、大学生になるための進学前教育の一環として、関連大学の教員から各専門分野の話題を聞いて基礎知識を習得するとともに、将来の進路について考える機会を与えるためである。加えて、大学における授業の受講に十分な日本語能力を有することを判定するとともに、日本事情に関する理解を深めることを目的として、選択必修科目であった「総合学習」を必修科目に変更した。すなわち、全体的に取得可能単位数を増やし、大学進学に向けての準備教育や日本事情理解のための科目を新たに設けることで、大学への進学意識を高め、日本語学習の必要性を学生に実感させることが、このカリキュラム改訂の目指したところである。

表3：改訂後の留学生別科カリキュラム（2020年度～）

| 授 業 科 目       | 単<br>位<br>数 | 必<br>修<br>選<br>択<br>別 | 週あたりの授業時間数と<br>開講期 |   |
|---------------|-------------|-----------------------|--------------------|---|
|               |             |                       | 春                  | 秋 |
| 日本語Ⅰ（文型・文法A1） | 4           | ○                     | 4                  |   |
| 日本語Ⅰ（文型・文法A2） | 4           | ○                     | 4                  |   |
| 日本語Ⅰ（文型・文法B1） | 4           | ○                     |                    | 4 |
| 日本語Ⅰ（文型・文法B2） | 4           | ○                     |                    | 4 |
| 日本語Ⅱ（聴解A1）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅱ（聴解A2）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅱ（聴解B1）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅱ（聴解B2）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅱ（聴解C1）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅱ（聴解C2）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅲ（会話A1）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅲ（会話A2）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅲ（会話B1）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅲ（会話B2）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙A1） | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙A2） | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙B1） | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙B2） | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙C1） | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅳ（漢字・語彙C2） | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅴ（作文A1）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅴ（作文A2）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅴ（作文B1）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅴ（作文B2）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅵ（読解A1）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅵ（読解A2）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅵ（読解B1）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅵ（読解B2）    | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 日本語Ⅵ（読解C1）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅵ（読解C2）    | 2           | ○                     |                    | 2 |
| 日本語Ⅶ（試験対策A1）  | 4           | ○                     | 4                  |   |
| 日本語Ⅶ（試験対策A2）  | 4           | ○                     | 4                  |   |
| 日本語Ⅶ（試験対策B1）  | 4           | ○                     |                    | 4 |
| 日本語Ⅶ（試験対策B2）  | 4           | ○                     |                    | 4 |
| 別科セミナー        | 2           | ○                     | 2                  |   |
| 総合学習          | 2           | ◎                     |                    | 2 |

### 2-3 留学生別科の教育システム

留学生別科では、入学要件を日本語能力試験（JLPT）N5 相当レベル以上と定めているが、入学直後は日本語学習歴にばらつきがあり、日本語能力の差が大きい。そこで、学生の日本語レベルに合わせて3つにクラス分けを行い、1クラスあたりの受講生15名以下でクラスを編成している。別科の授業時間は、月曜日～木曜日は9:10～14:45（1限目～3限目）、金

曜日午後はイスラム教の学生に配慮して、授業を 12:25（2 限目）までとしている。また、各日の授業時間後には必要に応じて補習を実施している。したがって、全体的な週当たりの日本語学習時間は、補習も含めて 28 時間程度であり、1 年間の総合計授業時間数は 840 時間程度となる。

留学生別科は日本語教育が中心ではあるが、日本人との交流機会や、日本文化に触れる機会も設けている。例えば 2019 年度は、地域の小中学校を訪問して自国の文化を紹介する機会を設けることで、日本語に触れる機会を増やしている。加えて、日本人大学生との研修旅行や、お寺での座禅修行体験などを実施した。

### 3. 留学生別科における日本語教育結果の分析

#### 3-1 評価対象データと日本語能力の定量化

日本語能力向上の評価には、2010～2019 年度に在籍した学生累計 197 名分のデータを利用した。男女別の累計数は男性 148 名、女性 49 名である。入学時と修了時の日本語能力レベルを定量化する方法として、日本語能力試験（JLPT）などの日本語能力を測る公的試験を利用した。日本語能力試験（JLPT）以外の公的試験（例えば日本検定協会の J.TEST<sup>3)</sup>）については、各試験実施団体から日本語能力試験（JLPT）とのスコアの対応が公表されている。したがって、日本語能力試験（JLPT）N5～N1 に該当するレベルを N5=1 ポイント、N4=2 ポイント、N3=3 ポイント、N2=4 ポイント、N1=5 ポイントとして分析に供した。なお、N1 が日本語能力の最も高い評価となる。ちなみに修了時の日本語能力評価には、各学生が在籍中に受験した各試験結果のうち、最もレベルが高かったものを選択して用いている。

#### 3-2 入学時と修了時の日本語能力の比較

各年度における入学時と修了時について、在籍していた学生全員の日本語能力（前節で述べたポイント）の総和を在籍人数で割った平均ポイントを図 1 に示す。入学時の段階では、日本語能力試験や日本語に関連する公的試験を受験していない学生が多いため、入学時の日本語能力レベルの平均は総じて低い。なお、留学生別科の入学試験では、出願資格に日本

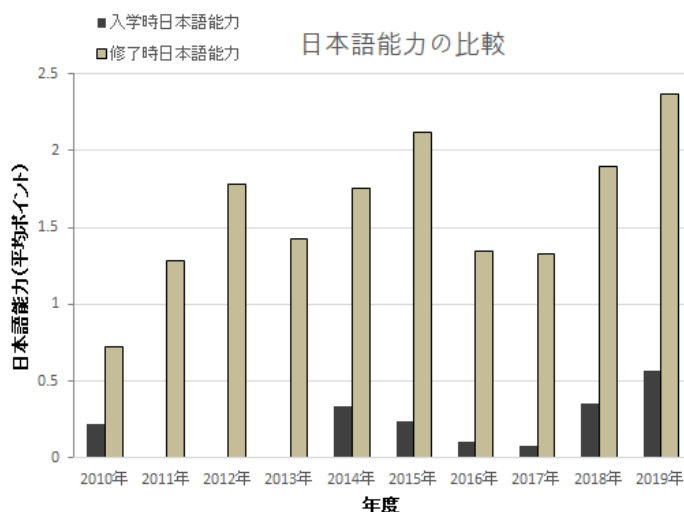


図 1：入学時と修了時の日本語能力（平均ポイント、2010 年度～2019 年度）

表 4 : 日本語能力試験の合格者数 (2010 年度～2019 年度)

| 留学生別科入学後の日本語能力試験合格者(累計数) |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| レベル／年度                   | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
| N1                       | 0     | 1     | 0     | 0     | 1     | 0     | 1     | 0     | 0     | 1     |
| N2                       | 1     | 1     | 0     | 1     | 2     | 7     | 1     | 4     | 1     | 5     |
| N3                       | 4     | 0     | 4     | 0     | 3     | 9     | 8     | 4     | 10    | 15    |
| N4                       | 0     | 0     | 2     | 1     | 2     | 1     | 1     | 9     | 15    | 2     |
| N5                       | 0     | 0     | 0     | 5     | 0     | 0     | 0     | 12    | 5     | 1     |
| 在籍者数                     | 18    | 7     | 9     | 7     | 12    | 17    | 29    | 40    | 28    | 30    |

語能力試験 (JLPT) N5 レベル程度と定めていたが、受験時にその証明を求めていなかったため、2021 年度入試からは公的な証明書の提出を義務付けるようにしている。年 2 回実施される (7 月・12 月) 日本語能力試験の結果を表 4 に示す。この結果は、留学生別科に入学後の合格者の累計数である。表 4 より、2019 年度は N3 以上の合格累計数が高いことがわかる。2018 年度までの入学試験では選択問題を中心に出题していたが、2019 年度入学生には「漢字の書き取り」や「別科修了後の目標」などを書かせる問題を中心に出题した。すなわち、ある程度の基礎日本語能力を有していなければ合格が困難である問題に変更したことが、日本語能力試験の合格者数が上がった要因ではないかと考えている。

図 1 の日本語能力比較の結果より、この 10 年間で入学時に対する修了時の日本語レベル向上が大きく、かつ、修了時の平均ポイントが 2 を超えたのは、2015 年度と 2019 年度であった。2015 年度の日本語レベル向上が大きかった要因として、ベトナムからの留学生の語学学習能力が高かったことと、それまでにない女性が多かったこと (唯一、女性数が男性数を上回っていたこと) が挙げられる。これは男女差別ではなく、言語能力の男女差は実際に存在するようである。例えば Brantmeier らは、第 2 言語のリーディングにおいて女性の方が優位であるとの研究結果を報告している<sup>4)</sup>。表 5 に漢字圏および非漢字圏の留学生における日本語能力レベル平均点の比較を示す。漢字圏の男女の平均点にはほとんど差がみられないが、非漢字圏の男女の平均点には差があり、男性と比べて女性の方が、N3 の場合に言語知識 7 点、読解 7 点、聴解 6 点高く、N2 の場合に言語知識 5 点、読解 13 点、聴解 5 点高い結果となった。この結果は、男女の学習意欲に違いがないと仮定した場合、女性の方が日本語修得能力が優れている可能性を示唆している。一方、2019 年度については男性が多いことから、この考え方は当てはまらない。あくまで推測ではあるが、2019 年度にはディプロマポリシーやアドミッションポリシーを策定して留学生別科の目指すべき方向性を共有できたこと、それに合わせて留学生別科の活動を改めて見直し、日本人との交流機会を増加させるなどの積極的な対応を行ったことが、学生の進学意欲向上、ひいては日本語レベル向上に役立ったと考えている。

一方、2016～2017 年度の 2 年間は、入学時に対する修了時の日本語レベル向上および修了時の日本語レベルが低かった。パキスタンやネパールなどの非漢字圏の学生が多かったことが一因と考えられる。さらに別視点から検討するために、各年度における入学前の日本語学習歴 (学習月数) の平均値を調べた結果を図 2 に示す。これらは入学願書に記入されていた値であるが、2016～2017 年度が特に低いわけではなく、修了時の日本語能力との明確な相関は認められなかった。このことは、入学時における学習歴は、入学時に N5 の日本語

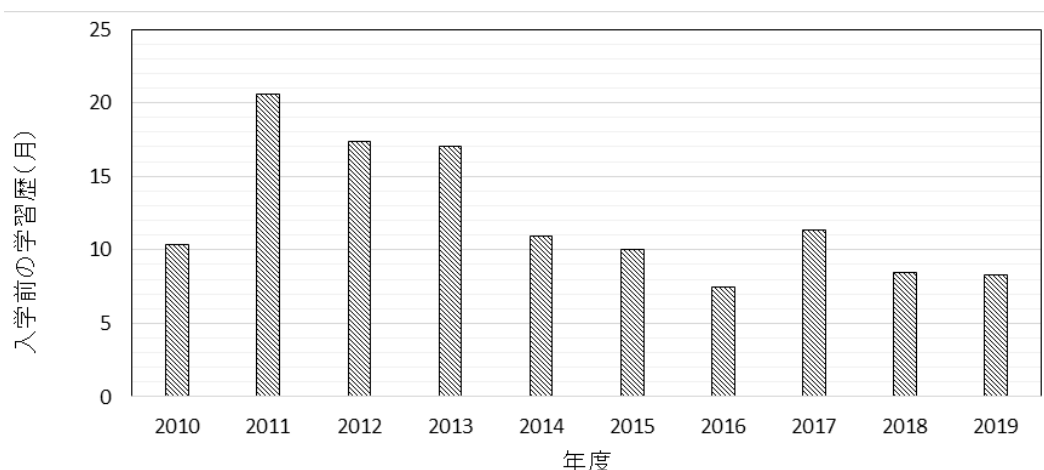


図2：入学前の日本語学習歴（平均値、2010年度～2019年度）

表5：漢字圏・非漢字圏日本語能力レベル平均点の比較（男女別）

| 性別 | 圏    | 日本語能力レベル平均点 |        |        |         |          |        |        |         |
|----|------|-------------|--------|--------|---------|----------|--------|--------|---------|
|    |      | N3          |        |        |         | N2       |        |        |         |
|    |      | 言語知識(60)    | 読解(60) | 聴解(60) | 合計(180) | 言語知識(60) | 読解(60) | 聴解(60) | 合計(180) |
| 男  | 漢字圏  | 32          | 38     | 34     | 104     | 29       | 30     | 34     | 93      |
|    | 非漢字圏 | 27          | 29     | 38     | 94      | 21       | 16     | 36     | 74      |
| 女  | 漢字圏  | 33          | 39     | 37     | 108     | 28       | 30     | 34     | 92      |
|    | 非漢字圏 | 34          | 36     | 44     | 113     | 26       | 29     | 41     | 95      |

能力を求める観点からは重要であるものの、必ずしも学習歴の長さが修了時の日本語能力向上に結び付くものではないことを示唆している。

### 3-3 加計学園設置大学および専門学校への進学者数

この10年間に在籍した学生が加計学園の各大学および専門学校へ進学した人数は、累計で岡山理科大学69名、倉敷芸術科学大学6名、千葉科学大学4名、岡山理科大学専門学校5名である。すなわち、これらの学校へ進学した割合は全修了生の約40%となる。

2010～2019年度における各大学および専門学校への進学者数を図3に示す。いずれの年度も岡山理科大学への進学者が多いが、その数は2014年度までは多かったものの、2015年度に一旦落ち込み、2018年度から再度増加に転じている。進学率合計も同様の傾向である。また、進学者の合計は各年度における在籍人数とも関係するようであり、2017年度までに限定すれば、在籍人数が多くなるほど進学者が減る傾向にある。この要因としては、先に述べたように2015年度から南アジアからの留学生（非漢字圏）が増えたことと、2015～2017年度における急激な在籍人数増加への対応が後手に回ったことが挙げられる。しかし、非漢字圏学生の2年目残留への定常的対応や、留学生別科内でのポリシー策定（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）を含む体制整備を進めた結果、2018年度からは在籍者数が多くても進学率合計が50%を超えて増加傾向に推移するようになった。

次に、日本語能力と大学進学の関係を表す一例として、2015～2019 年度における日本語能力試験（JLPT）N3 相当以上の合格者数と岡山理科大学合格者数（進学者数）の関係を図 4 に示す。両者には明確な対応が認められ、N3 相当以上の合格者数が多いほど、岡山理科大学への合格者数も多くなることがわかる。すなわちこの結果は、岡山理科大学への進学を目指すのであれば、日本語能力として N3 以上のレベルが必要であることを示唆している。なお、岡山理科大学の私費外国人留学生入試において、2021 年度入試からは受験資格に日本語能力試験（JLPT）N2 相当以上を有することが加えられており、留学生別科にも学生の更なる日本語能力向上が要求されている。

### 3-4 漢字圏出身者、非漢字圏出身者の日本語 3 技能の比較

2015～2019 年度において、在籍中に N3 以上の日本語能力試験（JLPT）を受験した学生を漢字圏（中国）出身者および非漢字圏出身者に分け、その日本語能力を 3 技能（言語知識、読解、聴解）に分類して比較した。各点数の内訳は言語知識 60 点、読解 60 点、聴解 60 点、合計 180 点満点である。言語知識、読解、聴解で獲得した得点、具体的には、N3～N1 を受験した学生の各技能に関する成績を、満点を 1.0 として獲得点数を割合で表し、それに N3=3 ポイント、N2=4 ポイント、N1=5 ポイントの重みを付け、受験した学生数で平均化して日本語能力試験正答率とした。例えば、N3 レベルの学生が得た得点が言語知識 33 点、読解 30 点、聴解 39 点とする。この得点の満点を 1.0 とすると、言語知識 0.55 点、読解 0.5 点、聴解 0.65 点となる。この得点に先ほど決めた N3=3 ポイントをかけ、全体を平均化したものを日本語能力試験の正答率とした。その結果を図 5 に示す。N3 以上に限定したのは、N4 以下では試験結果が 3 技能に分類されていないためである。一般に、漢字圏出身の方が日本語への対応が容易であるように想像されるが、この結果を見ると、言語知識（文字語

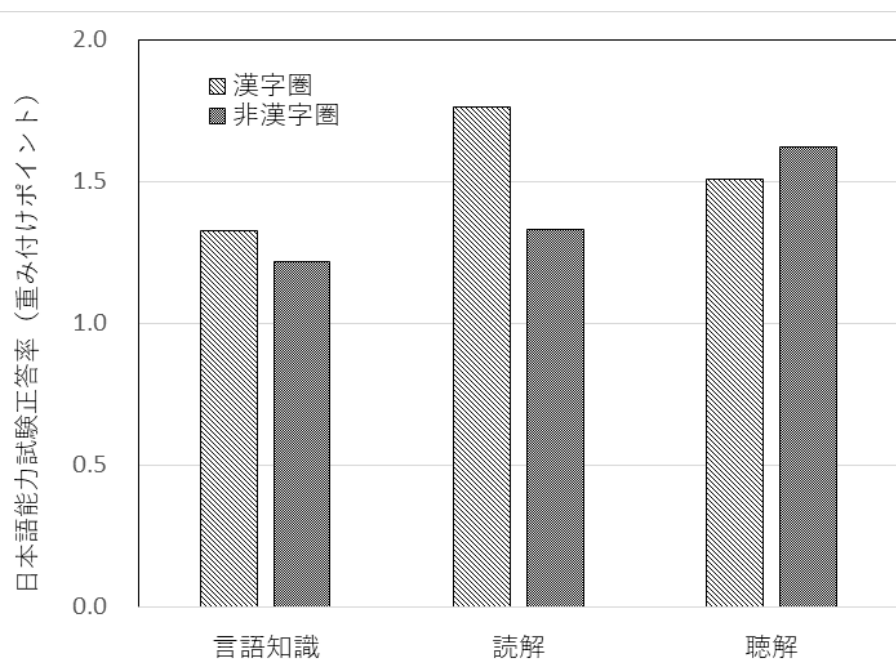


図 5：漢字圏出身者、非漢字圏出身者における各日本語能力正答率の比較



彙文法) および読解については確かに漢字圏出身の方が若干高い値となったものの、聴解については非漢字圏出身の方が若干高い値となった。

この結果に関して、例えば三國ら<sup>5)</sup>は、第二言語としての日本語の聴解において、内容理解に必要な語彙知識(言語知識)の量的側面(既知語率)を測定し、読解における知見と比較検討することにより、聴解における語彙知識の役割を検討している。その内容によると、聴解は読解に比べて、やや低い既知語率で内容理解が促進されるようである。漢字圏出身者については、既知語率(言語知識)が高く内容理解共に相関が高かったようだが、音声より形態からの語の認知が優勢であるため、聴解では逆に単語の認知が困難となり、内容理解が促進されなかったのではと予想される。すなわち三國らの研究でも指摘されているように、

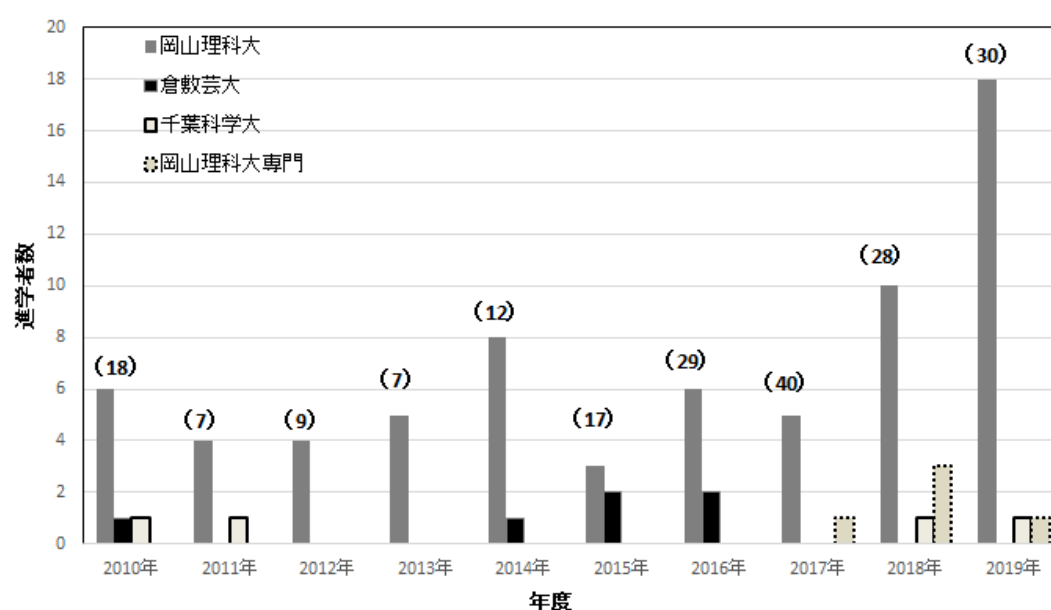


図3：加計学園の各大学および専門学校への進学者数（カッコ内は在籍者数）

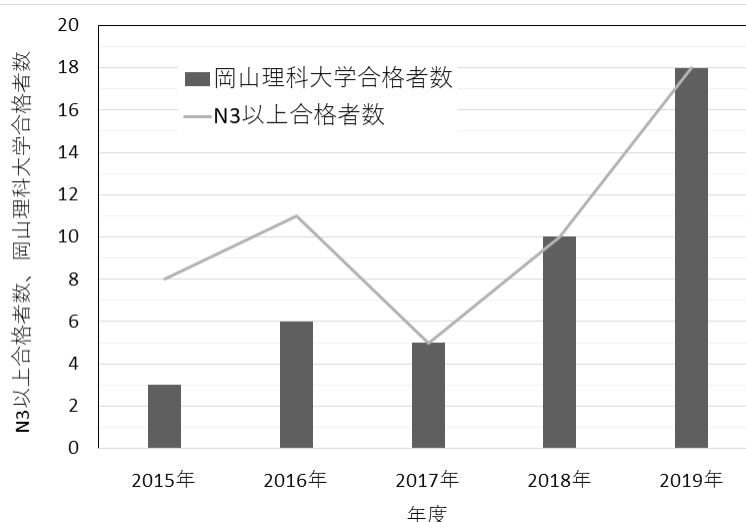


図4：日本語能力試験（JLPT）N3相当以上の合格者数と岡山理科大学合格者数

漢字圏の学生は視覚からの情報に頼る傾向がみられるため、聴解が伸び悩む傾向があり、漢字圏出身者の聴解能力をいかに向上させるかが今後の課題の一つである。一方、非漢字圏出身者については、語彙知識を向上させることが読解能力の向上にもつながることから、言語知識の向上が重要と考えられる。

#### 4. 留学生別科の現状と課題

文化庁文化庁国語課の調査<sup>9)</sup>によると、令和元年末には日本に在留する外国人の数は約293万人となり、「出入国管理及び難民認定法」が改正、施行された後の約108万人（平成2年末）と比べて3倍に迫る数となったという。平成31年4月には「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が施行され、新たな在留資格として「特定技能」が設置された。また、令和元年4月には日本語教育機関の告示基準<sup>7)</sup>も改定され、日本語教育に対する法律の整備も進められている。

現在、国内における日本語学習者の出身国で上位3位を占めるのは、中国、ベトナム、ネパールである。また、大学等および民間の日本語教育施設・団体において、アジア地域出身が80%以上を占めるという。これに伴い、留学生別科の在籍者の出身国も、中国だけでなく南アジア諸国が多くなっている。留学生別科はこの10年間、多様な学生の状況に合わせて日本語教育を行ってきた。しかし、入学者の推移をみると、非漢字圏出身で日本語の学習歴が1年に満たない学生が、留学生別科での1年間の日本語学習を経て大学へ進学することはかなり難しいのが実状である。一方で、来日前に日本語の基礎を身につけることは、南アジア諸国における日本語教育環境を考えると難しい。このような状況を鑑み、2017年から2年目残留が了承されたが、2年目になると学生のモチベーションが低下する傾向があり、2年目の学習意欲をいかに持続させるかが今後の課題である。

2016年、2017年度は特に岡山理科大学への進学者数が10年間でもっとも下回った年であった。その理由として、この年は、非漢字圏の学生でN5相当レベルに到達していない学生が多く入学し、1年間では大学の講義に対応できるまで日本語能力を引き上げることができなかったことが考えられる。図4の結果からわかるように、N3以上の日本語能力を有していなければ岡山理科大学への進学は難しい。特に、2021年度入試からは受験資格に日本語能力試験（JLPT）N2相当以上が求められるため、非漢字圏の学生には厳しい状況となっている。今後は、1年間ないし2年間で岡山理科大学へ進学できるレベルまで学生の日本語能力を向上させることができるように、教育体制も含めて改善を進めていきたい。

#### 5. まとめ

本研究では、始めに2010～2019年度の10年間に在籍した学生の国籍、男女別人数の推移を整理し、学生の状況をまとめた。また、2016年度以降から南アジアからの入学者（非漢字圏出身者）が増えたことに伴い、2年目も続けて学習できるようにカリキュラムを改定したことを紹介した。次に、学生の日本語能力が入学時と修了時でどの程度向上したかを定量的に調べるため、新たな日本語能力評価指標を導入した。その指標を用いて、入学時の日本語学習歴、大学等への進学率との関連について考察した。一方、2015～2019年度に在籍した学生の日本語能力試験（JLPT）結果をもとに、漢字圏出身者と非漢字圏出身者の日本語3技能（言語知識、読解、聴解）を比較し、出身地の影響を明らかにした。これらの結果を

総合的に俯瞰し、最後に留学生別科の現状と課題について考察を行った。

## 謝 辞

留学生別科の講義をご担当頂いております非常勤講師の先生方に、心より感謝申し上げます。留学生別科を支えて頂きました留学生別科委員会の皆様に感謝いたします。また、岡山理科大学事務局、加計学園国際交流局、岡山理科大学グローバル教育センターの皆様には多大なご協力を賜りました。ここに感謝の意を表します。

## 参考文献

- 1) 国際交流基金 日本語能力試験 <https://www.jlpt.jp/> (参照 2020-10-10)。
- 2) 日本語教育振興協会：令和元年度日本語教育機関実態調査結果報告，(2020) pp. 3-4.
- 3) 日本語検定協会：実用日本語検定 J.Test <https://j-test.jp/> (参照 2020-10-10)。
- 4) Brantmeier, C.: Gender, violence-orientated passage content and second language reading comprehension, The Reading Matrix, Vol. 4, No. 2 (2004), pp. 1-19.
- 5) 三國純子・小森和子・近藤安月子，聴解における語彙知識の量的側面が内容理解に及ぼす影響－読解との比較から－，日本語教育 125 号 (2005.4) pp.76-85.
- 6) 令和元年度国内日本語教育の概要 [https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku\\_jittai/r01/pdf/92394101\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/r01/pdf/92394101_01.pdf) (参照 2020-10-10)。
- 7) 日本語教育機関の告示基準 <http://www.moj.go.jp/content/001319084.pdf> (参照 2020-10-10)。